



仲之

新宿区立牛込仲之小学校

アゲハ

副校長

「3、4年生で人生は変わります」

3年生の「理科実験名人」の講師として、授業の日の朝、山梨県から牛仲小にいらした先生が言いました。先生は何種類ものアゲハチョウの標本と、20cm四方の透明なケースを4つ、幼虫の餌となるミカンや明日葉の葉をどっさり携えてきました。私はケースの中身を見せてもらいました。そこには鈴なりになったアゲハの黄緑の幼虫がいました。

「鈴なりの幼虫」を見たことがありますか。幼虫たちはそこそこで美味しそうに葉を食べています。すでにケースのふちを這っているものもありました。数々の小さなパワーに圧倒されて、私はわずかに体を引いたのでしょう。その反応に気付いた先生が言ったのが、冒頭の言葉です。

授業は3時間目から始まります。その準備のために先生は、蓋つきの小さな容器に幼虫を1匹ずつ移していました。ナミアゲハの幼虫33人分、キアゲハ、ジャコウアゲハの幼虫と成虫が数匹ずつ、各班に配られます。

黄と緑の縞模様、目に赤の点。頭が少しふくらんでいます。「幼虫にも脳みそがあります」そう言いながら作業を進める先生は、すでに楽しそうでした。「体験は人生を変えます。昆虫に触れるかどうかは、3、4年生くらいが境目です。最初は泣く子もいます。でも授業の終わりには、きっと触れる子が増えますよ」。

授業がはじまりました。机には幼虫が入った容器が並んでいます。まず、卵から幼虫、さなぎを経て成虫になるアゲハの生活史や「アゲハの幼虫は、触って怒るとツノを出すんだよ」というような講義を受けました。

いよいよ観察の時間です。子供たちは、それぞれルーペを持っています。はじめは容器の外から遠目に眺めていました。蓋を取り、最初は指先の皮膚にほんの少し、触れるか触れないかくらい。しかし、よく観察するうちに、そのフォルムの愛らしさや柔らかさに気付いたのでしょう。なでるように触り出します。

「先生、私の幼虫は優しい子みたい。触っても全然怒らないよ」と言う子がいました。なでなで…。すると、「先生、ツノが出た、優しい子じゃなかったよ!」。おみやげの幼虫を何匹か残し、アゲハの標本やケースを車に積んで、先生は嬉々として山梨に帰って行かれました。

19日から、夏休みがはじまります。今年の夏も、ラジオ体操や学校開放プール、各町会のお祭り、また夏の終わりには、うしな保護者の会主催の納涼祭が行われます。一生に一度しかない、今の学年での夏休みを過ごす中で、人生が変わるほどの楽しい体験を重ねていってほしいです。

相談室から

スクールカウンセラー

相談室では、子どもたちや保護者の皆様からの相談を受け付けております。誰かに話すことで、気持ちや状況が整理され、新しいアイデアが生まれることがあります。相談は秘密厳守で行えますので、安心してご利用ください。

また相談業務以外にも、休み時間や授業の様子などを通して子供たちが示す小さな変化に気を配り、学校生活が充実するようサポートに努めてまいります。今年度、相談室では牧野・田頭と2名のカウンセラーが勤務しております。保護者の皆様のちょっとした気づきが、大切なきっかけになることもあります。お子様のことで気になることなどありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

☆相談室を利用するには・・・

相談室は月曜・木曜・金曜日に開室しています。相談したい場合は、学校(03-3358-3762)または相談室直通電話(03-6274-8788)にご連絡ください。直通電話は留守電対応になっておりますので、クラスと児童名をお伝えください。カウンセラーの勤務日に折り返しご連絡いたします。また、勤務日が変更となる場合もありますので、事前にご連絡いただくとスムーズにご案内できます。どうぞよろしくお願いいたします。



委員会活動

委員会活動担当

今年度は保健・給食・図書・集会・放送・運動の6つの委員会と代表委員会で高学年(代表委員会は4年生が前期、後期に分かれて)の児童が活動しています。それぞれの委員会ごとに工夫して活動しています。

～ 委員会についてのインタビュー ～

- ・委員会活動を通して、みんなが楽しく学校に来れるように、考えながら仕事をするのが楽しいです。
- ・集会の時に、司会としてみんなの前で話すことができるか、不安な気持ちでいっぱいでした。そんな時に委員会のメンバーが応援してくれました。本番では、うまく話すことができました。司会に挑戦してよかったです。